

仮想通貨早見表

* 2017/10/31 14:00現在

通貨名		単位	発行上限*	流通量*	時価総額(百万円)*	決済スピード	匿名性	強み	特徴	評価・ニュース等
ビットコイン	Bitcoin	BTC	21,000,000	16,655,562	11,608,211			No.1普及率	世界で最初に誕生した仮想通貨 システムの根幹はブロックチェーン セキユリチは完全なもので、誕生から今日現在まで不正されたことは一度もない ブロックチェーンに通貨の情報だけを取り入れた、純粋な仮想通貨 秘匿性があがり、透明性が高い（履歴だけでは個人を特定することは出来ないが、取引所やIPアドレス、そして日本の銀行口座などを調査されれば個人まで特定可能） 仮想通貨の世界シェア2位の座を維持する2大仮想通貨の一つ	使用可能店舗 https://jpbitcoin.com/shops
イーサリアム	Ethereum	ETH	-	95,429,119	3,347,704			スマートコントラクト	ビットコインが純粋に通貨だけを扱う仮想通貨であるのに対し、イーサリアムは証券、債券、先物、不動産、さらには契約の情報もブロックチェーンに保存できる（スマートコントラクト） 2017年のアップデートで、ジーキャッシュの技術を使い、通貨に匿名性を持たせる改良がおこなわれる予定	プラットフォームとして、ICOや、仮想通貨のプログラムとして使用されたり、国連の難民キャンプで注目を集めた
リップル	Ripple	XRP	100,000,000,000	38,531,538,922	885,840	◎		銀行間取引中心	Googleが積極的にプロジェクトに参加する仮想通貨 ビットコインの弱点である、送金スピードに着目し、決済の速度を飛躍的にUP。数秒で完結 銀行間取引で従来より迅速かつ安い手数料での送金が可能 銀行間取引の送金システムとして、実際に導入例が相次いでいる	世界的な銀行と取引の実現が高い MUFJ（東京三菱UFJ銀行）のリップルの参加より、リップルが世間で認知され始めてきている みずほフィナンシャルグループとSBIホールディングスが共同でリップルのシステムを使った送金実験を実施
ビットコインキャッシュ	Bitcoin Cash	BCH	21,000,000	16,750,925	854,869			ビットコイン+取引量	世界シェア1位のビットコインから派生した仮想通貨（ビットコインの取引量が上限に達し送金スピードの遅れが出ていたため、取引上限を拡張するために分裂） 技術的な違いはあるが、通貨としての使い勝手はビットコインとまったく同じ 従来の1MBの取引量が8MBに改善	将来性に注目されている
ライトコイン	Litecoin	LTC	84,000,000	53,614,032	343,650	○		ビットコイン+高速取引	ビットコインと非常に似た仮想通貨。 基本的な仕組みはビットコインと同様だが、ビットコインに比べてより高速な取引が可能。 一般的なスペックのコンピューターでも採掘が可能。	ビットコインに似ている割に、時価総額が安いので、今後最も成長する仮想通貨の一つとして注目される
ダッシュ	DASH	Dash	18,900,000	7,653,522	247,151	◎		匿名性+高速決済	送金の際の承認速度が非常に速い（ビットコインの承認が10分かかるとのに対し、DASHでは約4秒） モノネロに次ぐ高い匿名性も実現。送金時、いったん自動的に「プール」と呼ばれる巨大なエリアを通過し、プールの中で通貨がシャッフル。プライバシーを保護した状態で送金する仕組みであるため、誰のコインが誰に渡ったのかという情報が分からないのが特徴	最近ではビットコインデビットカードに採用されるなど注目を集めている 海外では、ビットコイン以外に、ダッシュが決済で利用できるサイトがどんどん増えている
ネム	NEM	XEM	8,999,999,999	8,999,999,999	203,670			POI	頻りに利用する人に富を再分配するという新しいモデルの仮想通貨 他の仮想通貨が、マイニング参加者だけに報酬が得られる仕組みだが、ネムは利用頻度に基づいて報酬が発生する（POI：Proof-of-importance）ため、取引量が大きい世界中の銀行に注目されている リップルが銀行間取引に特化するのに対し、ネムは銀行内の取引に最適な仮想通貨	期待されるICOのプラットフォームの投資通貨として、ビットコインやイーサリアムと並び採用される 三井住友信託銀行やSBI信託銀行が、銀行内のシステムにネムを取り入れられるかどうか検討している
モノネロ	Monero	XMR	-	15,289,464	153,483		◎	世界最強の匿名通貨	ビットコインとは完全に独立したシステムで動作 2014年8月に誕生し、2022年までは1840万コインが発行され、その後、インフレーション率1%未満になるように調整されるインフレ通貨 ビットコインの持つ透明性の対局に位置し、取引履歴すらすべての人に閲覧不可能な高い秘匿性と不透明性が特徴	2017年8月に韓国の取引所である「Bithumb」で取引されると言う報道でさらに大きく価格が上昇
イーサリアムクラシック	Etherium Classic	ETC	-	96,976,233	119,612			クラシックさ	イーサリアムのアップデート前の仮想通貨（2016年にハッキングを受けた時にハードフォークをして切り離したもの） 旧イーサリアムがイーサリアムクラシック、新しいイーサリアムがイーサリアム。2つの仕組みはほぼ同じ ブロックチェーンは利害関係の影響を受けずに中立でないとはいえないという考えのもと生み出された通貨。イーサリアムの特徴を持ちながら、変更できる部分が限られ、新しいシステムやサービスと結びつけることが難しい	もともとオリジナルではなかったため価値がなくなるのではないかと言われていたが、依然として時価総額でトップ10にランクイン ただし、あまり特徴がなく、イーサリアムとの互換性もないため、先行きが不安 利用するためにある程度の技術が必要とするため、普及するには少しハードルが高い
ジーキャッシュ	Zcash	ZEC	-	2,515,019	67,513		○	限定された透明性	過去の取引履歴を閲覧できる人を限定できる モノネロのような完璧な不透明性に対し、ジーキャッシュは送金の実態を残しつつも、プライバシーを保護する ビットコインやモノネロと同様に、個人の送金に活用される	送金履歴を、送金先だけに確認できるようにすることで、通帳などで確実に振り込みを行ったことを証明できるため、通帳や振り込み払いに活用されることが期待されている 大手銀行JPMorganと技術提携したことが話題
リスク	Lisk	LSK	-	144,240,225	80,097	○	◎	高い開発ポテンシャル	マイクロソフトが開発に参加 決済の際に直接送金するのではなく、「プール」に情報を一旦送ることから、匿名性が格段に高い イーサリアムは様々な情報をブロックチェーンに記載するのに対し、リスクはサイドチェーンに保存するため、イーサリアムより高速 システムのアップデートや更新を、世界同時並行で行える イーサリアムのブロックチェーンを利用した、未来予測型の仮想通貨 脚元を介さず、海外のブックメーカーが行っている、いわゆる賭け（未来予測）を中央管理者（脚元）のいない分散型で実現	開発が他の仮想通貨よりも圧倒的に簡単にできるよう設計されていて、世界中のプログラマーが参加。開発言語にJAVAを用いており、プログラマーがなじみやすいことから、今後開発が加速すると いわれている
オーガー	Augur	REP	-	11,000,000	21,284			未来予測型賭博通貨	マイクロソフトが提携している仮想通貨 文書がある時点で確実に存在していたという事実を証明する機能を持っている（例えば、土地の管理や住民票、会社の重要書類、訴訟関連書類の保存など）	特に公共機関などで注目されている仮想通貨
モナコイン	MonaCoin	MONA	-	54,995,825	19,487	○		純国産の親しみ	純国産仮想通貨 世界で初のSegWit（取引量の増加アップデート）を行った仮想通貨 ライトコインと似た仕組みを採用 通貨として使用できる機会が多い（秋葉原の店舗や、仮想通貨のみで買える通販サイト「ビットコインモール」など）	純国産であることから、熱心なファンが多く、コミュニティが強い ビットフライヤーで取扱いが開始されたことを契機に価格が高騰 時価総額、発行枚数の点からも伸びしろがある

<https://coinmarketcap.com/>